

## 水稻栽培のウンカ類について

昨年度の水稻栽培においては数年ぶりに西日本を中心に広範囲でカメムシとウンカ類の発生が多く、大阪府内でも従来ほとんど発生が見られない地点でウンカの発生が確認されました。

本年につきましても近年の温暖化により夏の気温が高くなるとウンカ類の発生が多くなり、稲に害を及ぼすトビイロウンカが発生する可能性があります。

トビイロウンカとは成虫の大きさが4～5 mmで体色は脂ぎった褐色で長翅型と短翅型があり、長翅型が梅雨時期に大陸から飛来し、次世代以降に主に短翅型が増殖します。飛来数が増える理由としては大陸で水害などの自然災害により防除ができず増殖したウンカが台風や偏西風により日本へ飛来することが原因とも言われます。

8月以降急激に増殖し秋に被害を及ぼす為「秋ウンカ」と呼ばれ成虫と幼虫が稲の株元で吸汁加害して増殖し多発すると秋に坪枯れがおきてしまいます。

トビイロウンカは水田内で局所的に発生する為、気づきにくいので水田内を広く見回り株元をよく観察しましょう。

昨年度は例年になくウンカ類の発生しやすい気候条件でしたが本年も多発する可能性は十分ありますので8月中旬～9月上旬に発生が認められる圃場では下記の表を参考に使用時期に注意しつつ、すみやかに農薬を散布してください。

薬剤名	系統	希釈倍率	使用時期	使用回数
アルバリン粒剤	ネオニコチノイド	3 kg/10a	収穫7日前まで	3回以内
スタークル豆粒	ネオニコチノイド	250g～500g/10a	収穫7日前まで	3回以内
トレボン乳剤	ピレスロイド	1000～2000倍	収穫14日前まで	3回以内

※上記は一例で他にも薬剤はございますので営農経済センターへお問合せ下さい。

また、粒剤・豆粒剤は湛水状態で使用し散布後7日間は落水、かけ流しはしないで下さい。